

秋の月間で最高現勢回復に 山科支部

勝浦晋吾支部長

山科支部は2020年12月に支部最高現勢の240名に到達以後、増やした以上に退会があり、2021年春の月間以降、最高現勢の回復を目指して奮闘してきましたが未だに達成できていません。増やしても、施設への入所、介護のために家族との同居での転居や死去等による退会で困難な状況が続いています。

京都府本部の秋の取り組み(要旨)

年金者組合京都府本部は、

- 9月6日(水) 定例の執行委員会を開いて秋の取り組みを提案しました。
- ①現在のひどい「政治の進め方」を訴え、一人ではなく、つながりあって、助け合って豊かで・楽しい年金者組合の姿を伝え、実践もして退会者を上回る「仲間づくり」をすすめる。
- ②物価高騰に見合う年金の引き上げ！女性の低年金は「ジェンダー不平等の積み重ね」で起きていることを知らせ、低年金の底上げで最低保障年金制度の創設をめざす。
- ③府内の自治体・議会に対して、物価高騰に見合う年金

この「秋の月間」ではなんとしても240名への回復と次期支部定期大会までに250名到達の足掛かりを作りたいと思います。

つながりを生かした秋の月間に

大山崎支部

小西重和書記長

仲間ふやしと言っても対象になる人が分からないのが現状。そこで、住民台帳を参考に対象者を洗い出すという作業をまず行い、その中からターゲットを絞って行動の引き上げやマクロ経済スライドの廃止、最低保障年金の創設を要望し、請願行動を行う。

- ④高齢者の要求実現をめざす各種集会を成功させる。「第8回高齢者のくらし考える北部集会」 10月3日(火) 13時30分、丹後地域公民館ホール(丹後町間人)
- 「京都高齢者集会」 10月14日(土) 10時〜ラポール京都・京都年金一揆 11月11日(土) 13時30分、京都アスニー第8研修室
- ⑤補聴器の公的補助を求める運動を全府内ですすめる「学習交流会」 9月18日(月・祝) 13時30分、ラポール京都

をしていこうと決めました。ただ、現実には方針は決まったけどなかなか進まない、というのが現状です。行動出来る組合員が限定的で、役員すらほとんど動いていません。組合離れの傾向が強く、『年金者組合』という名前だけで話を聞いてもらえないこともあり、全戸訪問方式では効果が期待できないと思われれます。

当支部では無差別的に行動を起こすのではなく、何らかの繋がりを利用して、粘り強く行動を起こし、楽しくて頼れる組合を前面に押し出してすすめていこうと考えています。すぐに効果が表れることとはないと思いますが、少しでも年金者組合に対する見方を好意的な感じになってくれば、組合への加入希望者も現れてくるのでは、と考えています。

非組合員が参加できる 取り組み企画

舞鶴支部

三澤正之書記長

舞鶴支部では320人の仲間づくりをめざし、とりくみを進めています。9月には「ブドウ狩り」、10月には「大山崎山荘美術館」の日帰りバス旅行を企画しています。組合員外の方にも声を掛け、一緒

に参加して貰い、喜ばれる行事をすることで、仲間づくりをしようという計画をしています。また、これから涼しくなってくるので、グランドゴルフサークルなどに新しい方を誘い、参加者を増やしていくなど、各サークルの

活性化を通じて、新たな仲間づくりをめざします。新しい執行部体制となり、新たなつながり、発想からの仲間づくりやとりくみも期待しています。

物価高騰に見合った年金の引き上げを!!
低年金の底上げ・最低保障年金制度の創設へ
2023年“京都年金一揆!”

11月11日(土) 13時30分~16時
 京都アスニー第8研修室

テーマ 物価高騰に見合った年金の引き上げを・低年金の底上げ・最低保障年金制度の創設へ

記念講演 女性の低年金はジェンダー不平等の積み重ね (仮題)

講師 山本妙弁護士 (富山県いみず法律事務所・年金裁判岐阜事案弁護士)

特別報告 フランスでの年金改悪反対に若者は何故立ち上がるのか

お 話 片岡文子さん (右京区在住)

支部紹介⑰ 向日支部

平和・街づくり・学習 そして仲間づくりへ 参加者増やす工夫して

コロナを超えてサークル再開

一年を振り返って

支部の定例活動は、隔月年金支給日の宣伝行動や毎月の仲間増やしを行い、5月1日メーデー、8月6日の地域6カ寺協力の「平和の鐘つき」、向日市の街づくり(開発による街壊し)問題の学習会や他団体の認知症カフェとの協力での学習講演会(約330人)、地域の9条の会の平和宣伝などに参加した。歳祝いの会はコロナ警戒から開催されず、お



平和の鐘つき

祝いを配るにとどまった。特筆すべきは、市議会に16団体が補聴器購入補助の共同請願を提出し、本会議で採択されたことだ。



スタンディングアピール

サークル活動は、仲間づくりの基礎になっているが、仲間づくりに参加する仲間を増やしていくことがこれらの課題です。

署名や投書や支部への返しの届け先となる「年金者ポスト」のシールを機関紙配布サポーターの家に貼ってもらい、回収率を高める取り組みも署名回収で成果を発揮した。

コロナ下から立ちあがるサークル活動
休会を余儀なくされた「歌とお食事の会」は「歌とおしゃべり会」に変身し、「青春18切符の旅」も復活を遂げ、13サークルのほとんどが活動再開を迎えつつある。ウォークサークルでは、「大阪天神橋筋・中の島バラ園ウォーク」と「高裁裁判



折り紙サークル

史ウォーク」、折り紙サークルでの季節にちなんだ折り紙を誕生祝いにする、絵紙サークルでは創作した作品展を開くなど、いずれのサークルも創意工夫を凝らして、楽しい取り組みや支部の活動との関わりにも留意している。

機関紙は組合員の絆として重視

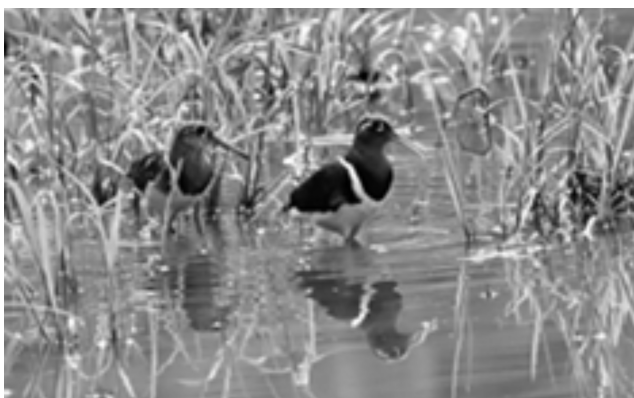
支部機関紙「たけのみち」は、支部活動、楽しいサークル活動の案内と活動報告、毎月の活動が一目でわかるカレンダー、多彩な組合員が登場する紙面づくりと組合員の紹介や投稿記事など、組合員の絆を結ぶ土台となっている。甲斐あって、機関紙コンクールでは優秀賞を獲得した。一層機関紙重視の積極果敢な紙面づくりに励んでいきたい。

竹内賢治書記次長記

ワンショット

鳥類では珍しい一妻多夫 精力的に活動するメスのタマシギ

チドリ目 タマシギ科



鳥類としては少数派である一妻多夫であることでよく知られているタマシギ。メスがオスに対して求愛ディスプレイをするのも特徴。メスはオスに比べて色彩が派手で、交尾したのちオスが作った巣にメスが卵を産み、オスが抱卵、子育てもオスの役割。

タマシギの一妻多夫は、子孫の繁栄のためと言われているが、その活動は精力的だ。

休耕田でオスとともに行動をするタマシギのペアを見つ

けた。メスがリードしオスは控えめな行動、他の野鳥とは真逆の行動形態をとっていた。雛は早成性で、生まれるとすぐに親の後を追って歩き出す。タマシギは田んぼや湖沼等で子育てするため、災害に会いやすい。またカラスや猛禽類の襲撃にも会いやすい。さらに、生息地である湿田や沼地が減少していることから、生息数は減少気味だといわれている。自然の力にはどうすることもできないのか。(浜)

京都年金者文芸



俳句

静けさや大樹を揺らす水すまし
無言館只ただ祈り蟬時雨
以上纏巻年金者しんぶん

佐藤 総子
中川 美穂

打ち上げる平和のしるし大花火
梅雨知らぬ北の空へと汽車の旅
以上宇治・久御山ねんきん

花野 玲子
野末たけのり

丹精の朝顔水色今朝の秋
後ろより合歓の花咲く音の朝
炎昼や人相までも溶けていく
以上北桑田支部

大野ひろみ
中野 範子
中野 忠樹

祭らし角角に旗立つ風に
九条は錆びぬ宝よ敗戦日
以上舞鶴年金者しんぶん

実千枝
陽 子

ハムエッグ今日は五つの夏休み
芭蕉葉の迎へし魔校キャンプ場
以上これからだ(福知山)

宮下 広美
吉田 武彦

風鈴を八つ吊ったる和音かな
百日紅ゆさゆさゆれて散りもせず
以上ひがしやま(東山)

伊藤 哲英
藤本 貞女

紫陽花の向かふ子ども見え隠れ
五日目や頂きもののメロン嗅ぎ
冷酒のあては羊羹日暮前
以上年金の仲間(北上)

祐子
ふじ紫
洋子

押し車ラベンダーの細き道
諍ひし友の訃報や終戦日

菅野 静江(城陽)
広田 浩三(下京)



短歌

(先月号で作者名を誤記しました。お詫びして再掲します。)

人間は楽しみ笑うためにある
友達からのはがきの言葉
今もなお治安維持法瑕疵なしと
堂々と言う国に生きぬ

西浦小百合

出穂をひかえし稲のあおみどり
朝風のなか沈黙いまは
朝5時仕事を終えてアイガモは
羽根くっつけてかたまり眠る

俣野 右内

朝5時仕事を終えてアイガモは
羽根くっつけてかたまり眠る

八木 幸雄

以上船井丹雲の会

マイホーム支援なら皆よろこぶに
唯一の被爆国なれば『はだしのゲン』
夏休みには見らと読みたし

渡辺 澄子

遠くより徐々に近づく雷の音
帰路の足どりいつしか速し
涼やかな縦縞でコート作りたる
75の夏ふわり歩かん
以上舞鶴年金者しんぶん

大由里千代野

以上舞鶴年金者しんぶん

青春の思い出おとし堂の山
仲間と登る八十路の吾は
長生きを独り祝ぎつつ老衰を
切なきことと思う日のあり
ウクライナ侵攻を機に軍拡す
いまこそ輝け憲法九条

大橋 歳彦(西京)

田中 敬怒(城陽)

有吉 節子(左京)



川柳

岸田さん軍事に酔いてどこへ行く
馬場維新戦争前夜の声を上げ

福井真由美(城陽)
出雲 源人(綴喜)

趣味の紹介



福知山支部 堀昭子さん

相楽支部 松田孝枝さん



町議9期 奮闘 住民生活向上へ 支部機関紙担当13年

大阪大空襲にも遭難

ばかりの焼け野原に大きな工場建物の鉄柱がいくつも立ち並んでいたことが、子ども心にとても印象的だったと話されました。

25歳で大山崎へ

25歳の時に、家族みんなで大山崎町に転居してこられました。当時は大阪で農産物を扱う会社に就職、ところが1年半ほど経った27歳の時、地元から「町会議員選挙に出てくれないか」との話が持ち上がります。「今は労働組合を立ち上げる運動をしているから無理」と断つたのですが、話を持ってきた人は職場やら関係先に交渉してけりをつけ、小梶さんは断る理由が無くなっ

てしまいます。そして仕方なく(?) 立候補し当選、議員の1期目が始まります。この時は全国最年少議員として有名になりました。この後はなんと9期にわたって町議を続け、同僚議員らとともに住民生活向上のために活動されてきました。長年の議員生活の中で

一番印象に残ったことをうかがうと「町長の不正発見」を挙げられました。これは帳簿に明るい同僚議員の発見がきっかけになったそう



う」とのことです。

趣味は絵画

病気で議員勇退後、絵を描くようになりました。幸い近所に嵯峨芸術大の泉地靖雄先生がお住まいで、先生のご自宅で指導していただくことができました。絵はとても性に合っていたようで楽しく創作を続けられています。現在結成14年目の「おとくに絵画集団GA」代表になって3年です。

支部ニュース13年

年金者組合では副支部長を務め、支部ニュースの編集を引き受けて13年です。実は中学生のころも校内新

輝いて元気に

(こかじあきら) 小梶 晃さん (大山崎支部 79歳)



一番お気に入りの絵

聞を作られていたそうです。とはいえ、毎月きちんとニュースを発行するのは大変なこと、一番の悩みは原稿の集まり方です。そのためには企画連載が最良と、ご近所の学者さんには「中国経済のはなし」、全国紙記者で東京在住の娘さんには「東京のはなし」を書いてもらっています。

「大山崎支部は最盛期の組合員130人以上でしたが今は60人足らずです。往年の勢いを取り戻したい」と話されます。部屋に飾られている絵は端正な色調ですが、ご本人も静かな声と穏やかな雰囲気、作品は人柄を表していると実感しました。

(取材 矢吹美根子
西田美津子)